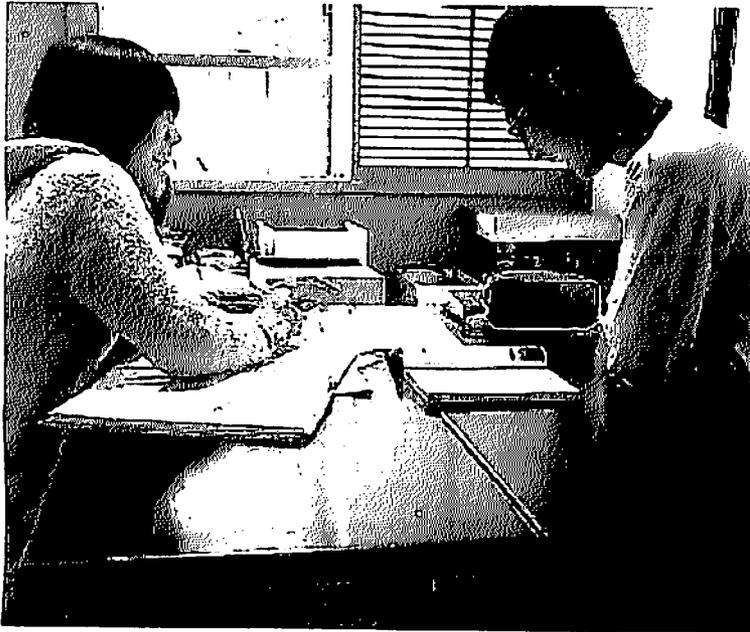
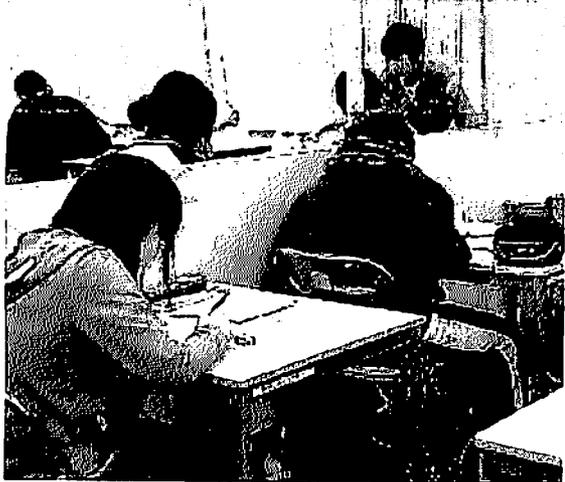


# 被災地に広がる学び支援



●龍昌寺では大学生(左)がマンツーマンで学習指導をする  
●子どもたちが静かに机に向かう「ソングハウス」(いずれも山田町)



## 寺で大学生が指導／おやつ付きの無料自習室

受験勉強が本格化する冬を迎え、被災地の子どもたちの学習をサポートする活動が広がっている。震災で将来や進路に不安を抱える子どもたちの夢を後押ししようと、大学生らを中心に学習支援ボランティアが動き出した。

「放射線と放射能の違いって分かる？ 試験で聞かれるかもよ」。山田町にある龍昌寺の一室から熱心な声が聞こえてきた。県立山田高の生徒を対象に、大学生らがマンツーマンで勉強を見守っている。

活動の主体は、盛岡市に拠点を置くボランティア組織「SAVE IWATE(セーブイワテ)」。スタッフが町を訪れた際、保護者から子どもたちの学習環境を不安視する声があったのがきっかけだった。数カ所あった学習室は被災したまま再開していない。寺を教室にして8月から支援を始めた。

講師は岩手大の学生が中心。山田高3年の芳賀祐介君(17)は大学入試を目前に控え、「大学生から直接アドバイスを聞けて、家で勉強するより身になる」。現在は土日の午前10〜午後5時。来年2

## ボランティアら 受験期控え動き出す

月まで続ける予定という。

NPO(公社)も福祉研究所が同町に開設した無料自習室「ソングハウス」はおやつ付き。地元の女性が支援物資を利用しておやつを用意することで、雇用対策の役割もある。講師はおらず、子どもたちは宿題や問題集を手机に向かう。9月の開設以来、口コミで広がって登録者は約120人にのぼる。

山田中2年の湊俊樹君(14)は「家だと集中できないけど、ここは友達と一緒に頑張れる」。看護学校を目指す武山えりかさん(19)は「いろんな人に支えられていると思うと、成果を残したいと向上心がもてる」と話す。

大船渡市では明治大がボランティア拠点「つむぎルーム」を開いた。冬休みの時期などを利用して、学習支援を進めようとする準備を始めている。

◇ 「SAVE IWATE」

は学習指導をするボランティアと生徒を募集している。問い合わせは及川誠也さん(0

80・1853・9182)

(音橋敏子)